令和２年度第３回花巻市立図書館協議会　会議録

１　開催日時
令和３年２月17日（水）　午前10時00分～午前11時50分

２　開催場所
花巻市立花巻図書館　会議室

３　出席者
（１)委員（９名）
佛川恒明委員、阿部久幸委員、堀合範子委員、藤田甲之助委員、
中里美香委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、
及川智子委員
（２)事務局（８名）
市川生涯学習部長、梅原花巻図書館長、
小原大迫図書館長、火石石鳥谷図書館長、菊池東和図書館長、
久保田花巻図書館副館長、伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

４　欠席者
３名（高橋則子委員、佐々木さつき委員、小笠原智恵子委員）

５　傍聴人
２名

６　議題等（議事録）
◎会議成立の報告（久保田花巻図書館副館長）
・委員12名中９名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第７条により、本会議が成立することを報告。

１　開　会（久保田花巻図書館副館長）

２　あいさつ（坂本会長）
おはようございます。足元の悪いなか、この大雪のなか、お集まりいただきましてありがとうございます。今、図書館は多くの方々に注目されております。た

くさんの、さまざまな意見が寄せられております。あとは、市の英知を結集してよりよい図書館ができますように、皆様でご協議よろしくお願いします。

（○久保田花巻図書館副館長）

ありがとうございます。それでは協議会規則第６条によりまして、議長は会長となりますので、以後の進行よろしくお願いいたします。

（○坂本会長）

それでは、早速議題の１番目「令和２年度花巻市立図書館の事業実施状況等について」事務局よりご説明お願いいたします。

３　議　題

（１）令和２年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

・令和２年度花巻市立図書館の事業実施状況について、（令和３年１月末までの実施状況を）花巻図書館から順番に各館が説明。
花巻：梅原館長、伊藤業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：火石館長、
東和：菊池館長

（質　疑）

（○坂本会長）

中止になったり、延期になったりすることが多いのですけれども、これに関してご質問ございませんでしょうか。よろしいですか。それではご意見はございませんでしょうか。これもよろしいでしょうか。

それでは、次に進ませていただきます。それでは議題の２番目「図書館来館者アンケートの結果報告について」お願いします。

（２）図書館来館者アンケートの結果報告について

・令和２年度実施の図書館来館者アンケートの結果報告について、梅原花巻図書館長から説明。

（質　疑）

（○坂本会長）

とても見やすくまとめていただいたと思いますけれども、アンケートに関してご質問等ありませんか。

議長席にいて発言しにくいのですが、わからないところがあるので、13ページについて教えてください。29番です。「入り口付近に以前設けていた新刊図書案内がわかりやすかったような気がします。」というようなアンケートのお話しに対して、「著作権の保護のため」というような回答があるのですが、これはどういうことなのですか。教えてください。

（○梅原花巻図書館長）

29番の「入り口付近に以前設けていた」というのは、以前、花巻図書館で本の表紙をコピーして、本を紹介していたことがあるのですが、表紙をそのままコピーして貼るということが、今は著作権上できないことになっておりまして、現在は行っておりません。ただ、背表紙のタイトルが書いている部分は利用してもよいことになっていますので、既に石鳥谷図書館では背表紙を利用して新刊紹介をしておりますし花巻図書館でも取り入れることで、今、検討しているところです。背表紙のタイトルを使った新刊案内を始める前に、既に取り組み始めたこととして、一般閲覧室に足を運んでいただければご覧いただけるのですが、こども室と一般閲覧室に本の帯をボードに掲示し、おすすめの本ということで新刊を紹介しています。

（○坂本会長）

帯は使ってもよいのですね。

（○梅原花巻図書館長）

帯と背表紙、本のタイトル部分は使ってもよいのですが、以前使っていたような本の表紙をそのままコピーして貼ることはできません。できないなかでも、何かできることをいろいろ考えていきたいと思っています。

（○坂本会長）

はい、ありがとうございます。（表紙のコピーは）すごくわかりやすかったですよね。それができなくなったのですね。

他にございませんでしょうか。

（○堀合委員）

アンケートの中に、「蔵書検索をスマホで」ですとか、それから「ホームページでいろいろな情報を知りたい」とかありましたけれども、最近、OPACのことを偶然知りましたが、とても便利で、スマホで花巻市と検索すると蔵書の目録が表示されて、それから予約もできるということがありまして、これはわざわざ図書館に行かなくても本を予約できるのだなということを初めて知りました。この件についてと、富士大の図書館を利用できることや、花巻図書館は非常に狭くてご苦労されている様子はよくわかるのですが、閉架書庫を見せてくれるというようなことは、何か広報等で周知しているのかどうかということを教えてほしいです。

（○梅原花巻図書館長）

お答えいたします。市のホームページの図書館のページのなかに、富士大学の図書館が（市立図書館の利用者カードで）利用できることや、OPAC で本を予約できるということを掲載していますが、予約の方法がわかりづらいというご意見

もいただいていましたので、先月、操作手順をまとめホームページに添付したところでして、同じ操作手順をカウンターにも置いて、ご質問があったときには職員がすぐに対応できるようにしています。また、図書館内に OPAC について、利用方法や予約方法などをわかりやすく、目に見えるように掲示することを考えています。

富士大の図書館についても掲示はしているのですが、周知が進まないということがあり、周知方法を考えていかなければいけないと思っています。

閉架書庫については、昨年開催された新花巻図書館の市民ワークショップの最初の回で、「花巻図書館の閉架書庫に入ることができることを知らなかった」というご意見をいただいてから、これは花巻図書館の場合ですけれども、閉架書庫１階の入り口のところや館内のいたるところに「閉架書庫１階に入れます」という掲示をしたり、職員が「この本ありますか」と聞かれたときに、これまでは本を持ってきて差し上げていたのですが、ご自分でご覧になりたい方もいるということで、「閉架書庫に入れますよ。ご覧になりますか」とお声がけすることを心掛け実施しています。そうしましたら、ずいぶん１階の閉架書庫にお入りになる方が増えてきました。地道に声掛けを続けるなど少しずつ対策をしているところですが、それでもアンケートにあるように「知らなかった」とのお声もいただきますので、もっと工夫しなければと考えておりました。

（○坂本会長）

はい、ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

はい、佐藤委員さん。

（○佐藤委員）

17ページのなかごろに「次世代の図書館のあり方を検討してほしい」とか「電子図書館を構想に入れてください」とかあったのですけれど、最近私が経験したことをお話ししたいと思いますが、私が本を読んでいて、読みたい資料や参考文献があったときは、岩手県立図書館に電話することが一番早いと思っていて、県立図書館にあれば県立図書館に出向くし、県立図書館の電話に出た方が県内のほかの図書館にあると教えてくれれば、石鳥谷図書館に行って相互貸借を依頼して取り寄せてもらう、県外（図書館から）でも取り寄せてもらうというやり方をしていたのですけれども、先日は「Ｊ－ＳＴＡＧＥ」という検索の仕方、「インターネットでこういうふうにやればお家で（資料を）見られますよ」ということを教えてもらって、すぐ家で自分が見たい参考文献を見ることができました。そして、もう図書館に行かなくていいのだと思って、こういう時代になったのだなと思ったのですけれど、自宅にインターネット環境がなければどうするのですかというと、近くの公共図書館に出向いて、国立国会図書館に複写を申し込んで公共

図書館で受け取って後日コピー代を振り込むというやり方もあるそうなのですけれど、本当に電子資料というものが今以上に増えていって、お家でインターネットを利用してそういう資料にたどり着けるという時代が迫ってきた、もう本当にそういう時代だなと思って、そうするとだんだん大きい図書館に紙の資料を蔵書していく時代ではなくなるのかなと思って、資料を収納するために大きい図書館をつくるという考えではなくなってくるのかなということを感じた経験でした。以上です。

（○坂本会長）

ありがとうございます。他にアンケートに関してございませんか。

それでは次に移ってよろしいでしょうか。それでは議題の３番目に移ります。「令和３年度花巻市立図書館運営方針及び事業計画について」ご説明願います。

（３）令和３年度花巻市立図書館運営方針及び事業計画について

・令和３年度花巻市立図書館運営方針（案）について、基本方針、重点目標を梅原花巻図書館長が説明後、各館の重点事項、事業概要の説明を花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：梅原館長、大迫：小原館長、石鳥谷：火石館長、東和：菊池館長

（質　疑）

（○坂本会長）

運営方針が各館から説明がありました。これに対するご質問、ご意見等ございましたならば、お願いいたします。よろしいでしょうか。はい、それでは、この運営方針に従って進めていただければと思います。

それでは、議題の４番目に入ります。「新花巻図書館整備について」ご説明よろしくお願いします。

（４）新花巻図書館整備について

・新花巻図書館整備について、市川生涯学習部長が資料に基づき説明。

（○市川生涯学習部長）

それでは新花巻図書館整備につきましてご説明をいたします。今回はカラーで資料をお渡ししております。これまでも皆様方には同様の資料をお配りしながら図書館協議会の中でご説明してきた状況でありまして、今日は現段階の状況についてご説明したいと思っております。

今年度、ワークショップの開催や各種団体との意見交換などを行ったなかで、11月末から12月にかけて市民との意見交換をする予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症が市内や県内にも少し感染拡大するという状況のなかで、これ

が開催できない状況でありましたために、１月末から２月の上旬にかけて、リモートでインターネットを使いまして、開催したという状況であります。今日お配りした資料は、その時の、市民との意見交換の時の資料でございます。これらの意見交換を踏まえまして、現在、図書館の整備基本計画の試案を作成しているところです。この試案を基に、市民参画の手法の中で図書館協議会の皆様にも見ていただき、パブリックコメント等もしていく予定でありましたが、これらも少し遅れているという状況でございます。市議会と市民との意見交換会の中でもお話ししておりますけれども、皆様からのご意見、市民との意見交換ということは重要であると思っておりますので、意見等もお聞きしながら、十分なコンセンサスを得て試案をつくり、パブリックコメント、また、図書館協議会の皆様からのご意見も踏まえてつくっていきたいということですので、時間の遅れはご了承いただきたいというように思っております。

資料№.４は、市民との意見交換会の資料ですが、これまでの流れのなかで、図書館協議会で説明してきた内容と変更または追加した部分がございますので、ご説明をいたします。まずは、これまでの経緯ということで、１ページから４ページまではご説明してきていたと思います。平成23年度に、前の図書館の整備をするための市民懇話会が設置されまして、中央図書館基本計画、花巻厚生病院跡地に建設する予定だった図書館の計画ができておりましたが、花巻厚生病院の跡地の土壌汚染が発表されたために、一旦、中断したという流れのなかで、平成29年８月に、新花巻図書館整備基本構想を策定いたしました。これは図書館協議会で最終的にご意見をいただいたものを、承認いただきながら決定したというものがこの基本構想でありました。この基本構想の基本方針として５ページ、また、整備方針として６ページにまとめておりますが、項目立てをしておりまして、具体的には、今つくっております基本計画で定めていくということでありました。

場所につきましては、候補地の検討ということで８ページ以降になりますが、９ページの青い枠の中の都市機能誘導区域内に整備をするというように方針で決めておりまして、この区域内に整備しますと国からの補助金が最大で10億５千万円活用できる可能性があるという区域でございます。候補地として、これまで花巻駅前に図書館の上に賃貸住宅とテナントをつけたような複合施設の計画も、昨年１月29日に公表したところでありまして、そこから皆様のご意見を聞くという状況でしたけれども、反対が多いという状況でありまして、現在はこれを進めるという考えはないということも、これまでご説明してきたとおりでございます。候補地については、前回までに７か所の候補地案をご説明してきておりましたがその中から、市民との意見交換では４か所にしぼって図面を出したところです。まずは17ページ、18ページですが、まなび学園の前、今の駐車場と芝生広場に建

てる案というものでした。21ページ、22ページは、まなび学園の体育館を壊してその場所に建てるという案です。そして、23ページ、24ページは、総合花巻病院跡地に建てる案、27ページ、28ページは、花巻駅前のスポーツ用品店がある場所に建てる案ということでございます。

１ページ戻っていただいて、25ページでは道路の説明をしております。これまでもご説明していましたが、まなび学園周辺に建てる場合の課題としては、道路に歩道がないという課題がありまして、花巻駅からの道路整備が必要だということでございます。黄色のラインで示している道路が都市計画道路の城内大通り線で、まだない道路ですが、万代橋から合同庁舎への都市計画道路です。この道路ができればよいのですが、これを整備するには、交差点の整理や道路勾配が、とても大変なことと、橋をかけるということで、かなりの経費もかかるし、時間もかかるだろうということです。そこが課題になっていまして、もし、まなび学園周辺につくるとすれば、このもう一つの赤いライン、現在の道路、ここに幸橋がかかっていますが、問題はそこに歩道がないというところなのですが、その片側に歩道をつけるのはどうかということを検討しています。ただ、これも用地買収等もありますので、道路の整備でも８年ぐらい時間がかかってしまうだろうという計算をしております。

27ページ、28ページは、花巻駅前につくる案です。花巻駅前ですと、少し緑がないのではないかというご意見、あと、立体駐車場をつくるということでご説明してきておりましたが、高齢者の方は立体駐車場が使いづらいというようなご意見もあったなかで、いろいろと検討してきておりまして、例えば今の多目的広場に芝生広場をつくることはどうだろうかという点、あと29ページに少し書いていますが、立体駐車場の１階部分は、高齢者や障害者、子ども連れ専用にして、通常柱と柱の間に３台車を停めるところを２台停めるなどという例もありますのでこういう方法もあるかなということも検討しております。あと、自転車も立体駐車場の中に駐輪場をつくるなど、この冬のように雪が多くなりますと、立体駐車場もいいかなというようなことを言ってくださる方もあります。除雪をしなくていいという点があります。線も（雪で）消えませんので。そういうところも説明しておりました。

次のページ、31ページで、ランニングコスト運営費についてもお示ししておりまして、今の花巻図書館ですと、今年度の予算レベルで8,300万円ほどかかります。これが新しい図書館ですと、一関図書館を参考にしておりますが、今、一関図書館レベル、4,500平方メートルほどの図書館を想定しておるのですが、そうしますと年間２億円弱かかるということも市民にお示ししています。ただ、これは図書の購入費もかなり多くとっていまして、多くとったなかで年間２億円弱かか

るということを見込んでおります。

市民との意見交換会の中では、ワークショップについても説明しておりまして７月25日と８月８日に高校生・20代編のワークショップを開催いたしました。そして、８月23日から10月25日にかけては、一般編のワークショップを開催したという状況です。一般編では公募定員を10名ということで募りましたところ、12名の申込みがありまして、皆様全員に参加していただいたというワークショップです。次のページ35ページです。ワークショップ４回目では、サービス計画などを議論していただいて、どのような図書館が欲しいかといったなかで、（資料に）１例を挙げておりますが、これらを説明しております。５回目のワークショップでは、これまで検討してきたサービスを実現可能な場所はどこかということを、グループで検討していただきました。７つのグループがあったのですが、花巻駅前がいいと言ったグループが一つ、まなび学園の周辺がいいと言ったグループが一つありました。そのほかの５つのグループは、場所をどちらとも決めない、どちらの場所でも実現はできるのではないかというような意見もありました。それぞれの場所にメリットデメリットがお互いにあるということで、こういうような意見がございまして、花巻駅周辺、まなび学園周辺以外には、イトーヨーカ堂東側空き店舗、花巻駅の西口、東公園（新興製作所跡地）、花巻市交流会館などの意見もございました。

ワークショップのアンケートについては37ページから39ページに書いておりまして、ワークショップに参加していただいた方々からアンケートをとったわけですが、この中ではＪＲ用地がいいという方が11名、まなび学園体育館がいいという方が６名というような状況でございます。このアンケートで場所をすぐに決めてしまうというつもりはございませんので、こういう状況だということをお示ししながら皆様のご意見を聞いているものです。

40ページは今後のスケジュールです。冒頭に申しましたとおり意見交換会ができずに、リモートによる、ウェブ利用による意見交換会を１月28日、31日、２月６日に開催いたしました。また、各種団体等からの要望に応じて意見交換会も開催しております。今後、基本計画の試案をつくりまして、パブリックコメントや市民説明会、図書館協議会の皆様にもご審議いただいて、基本計画をつくっていきたいというように考えております。なお、市民との意見交換会の参加者は報道機関も入れて延べ36名でした。ただし、数回参加する方、複数回参加する方もいらっしゃるような状況でありました。この意見交換会でいただいた意見等を少しお話ししますと、花巻の特色やまちづくり、花巻ならではの独自性や具体的な理念なりをもう少し書いたほうがいいのではないかという意見、基本構想の中では宮沢賢治や萬鉄五郎、先人顕彰など、そういう花巻には学びの歴史があったとい

うことで、いろいろ郷土に関するものを備えるなどということは示しております。あと、新型コロナウイルス感染症の影響化における図書館の在り方も少し考えたほうがいいのではないかというような意見。場所については、花巻駅前がよいのではないかという意見もありましたし、まなび学園周辺では総合花巻病院跡地がよいのではとおっしゃる方もございました。あとは、ターゲット等をしぼったほうがいいのではないかというような意見、図書館に関心がある人が少ないのではないかという意見、ランニングコストがこれだけかかるのであれば、例えばもう少し人を呼ぶような仕掛けを考えるべきではないか、複合化なども考えるべきではないかというようなご意見もございました。あとは蔵書の選定について、具体的には、数学に関する図書などが少ないとかですね、そういうような蔵書についてしっかりと検討してほしいというようなご意見、場所については立地適正化計画区域、つまり補助金をもらう区域以外も検討したほうがいいのではないかという意見もありました。意見はいろいろありまして、あまり理念などを議論するよりも気軽に利用できるものがいいのではないか、もう少し図書館をつくっていることをＰＲするべきではないかなど意見があったという状況でございます。今、それらもまとめながら、基本計画の試案づくりに活かしていきたいと思っておりますし、この意見交換の様子につきましては、ホームページに詳しく掲載しております。１月28日と31日につきましては、既に掲載しておりますし、２月６日も今週中にはホームページに載せる予定になっております。

以上、これまでの状況と市民との意見交換会の様子についてご説明をいたしました。質問あるいはご意見等をいただければと思います。よろしくお願いします。

（質　疑）

（○坂本会長）

ありがとうございます。新聞にいろいろな記事が出ていましたけれども、それらをまとめてあるようなものが今日いただいた資料かなと思います。

それでは、佛川委員さんからお一言ずつお願いします。

（○佛川委員）

いろいろな考えがあって、それから、それぞれの方の生い立ちなり、生活経験があり、考え方の違うものを一つにまとめていくのは余程大変なことだろうと思い、事務局、計画整備の中心となっておられる方々のご苦労に感謝しつつ、（新しい図書館が）早くできることを待ちたいと思います。以上です

（○坂本会長）

ありがとうございます。阿部委員さん、お願いします。

（○阿部委員）

なかなか一つにまとめていくことは難しいのだなということを、毎回協議会の場でこのお話しを聞くたびに感じています。別の資料の中の新しい図書館についてのご意見をまとめたもの（来館者アンケート資料）を読んだのですが、それを見ても本当にばらばらだなあというところで、あとはこれをどういうふうにしてとにかくどこかに図書館が早くできてほしいという願いだけは皆さん共通しているところだと思うのですが、何とかそちらのほうへ進んでいけばいいかなと。（図書館建設の）お話しがでてから約10年が経っていますので、そろそろ建築のほうに進んでいく時期になればいいなというような願いでおりました。以上です。

（○坂本会長）

ありがとうございます。堀合委員さん、お願いします。

（○堀合委員）

いつも資料の提供をありがとうございます。先程来、いろいろな意見がでているということでした。まずは、場所が先か、中身が先かということがあるかと思いますが、場所については、いろいろな意見があるなかで、だいたいいつ頃までを目途に決めたいというように思っているのかということが一つと、新聞で見ますと、市有地がいいとか、単独がいいとか、私の中ではカフェスペースは単独の中に入っても複合だという意識ですので、それぞれの捉え方だと思うのですけれども、そういった市有地が良い、単独が良いということが新聞にでていたのを読みました。また、ＪＲが売買に応じるようなところがあると新聞記事で読みましたが、例えば、ＪＲ用地にすると決めてしまってから交渉すれば、いくらでも向こうの提示された額になり、「ＪＲに決めたのだけれども・・」といったところの懸念はないのかなと。例えば、少しずつ進めて本当に買うとしたらこれだけの額になりそうだという判断をもとにＪＲ用地を考えるということも必要ではないかと思います。そのあたりの交渉の余地というのは、少しは進めているのかどうかというところ、この場で話せるかどうかわかりませんが、全く何も決めていなくて、ＪＲがよいということになってから、「あっ」となってしまうようなことはないのかなと。

（○市川生涯学習部長）

お答えをできる範囲でお答えしたいと思います。場所が先か、中身が先かという議論もありまして、我々はやはり場所を決めたいということで、当初から駅前がいいのではないかということで市議会にも答弁しているなかで、複合化、駅前ですとまちなかの活性化にもなりますし、ただし、敷地が少ないなかで、駐車場として市有地はあるのですけれども、そこを使ってしまうと、今度は駐車場がないという問題になりますので、そうしたなかで検討をしてＪＲの用地を借りてや

るという方法にたどり着いて公表し、このような形ではどうかとしたのですが、反対の意見が多かったというところで、市議会の中でも特別委員会を設置しまして、市民の意見をまとめたなかでは、複合化は住宅との複合化ではなくて、図書館単独で、ただしカフェ等も入れることを検討したような図書館が望ましいという意見を去年の12月の議会でいただいているという状況でありましたので、場所と中身を今、並行して進めているというような状況であります。そもそも場所は重要なので、それを決めてから、中身を決めていこうと議会でも説明し進めてきたところでしたので、そこは、ワークショップなどもやりながら、中身の議論も先に進めたというか、やりながら検討しているという状況です。どちらも入った基本計画を最終的には定めたいと思っていますので、それをこれから、少なくとも今年度、できるだけ早くやっていきたいと思っているのですが、ただやはり市民の皆様の合意というか、理解を得た段階で基本計画を定めたいというように考えています。

御心配されていた、例えばＪＲの土地に決めてしまって、そこから土地の交渉をして、地代が高かったらどうするかについては、ＪＲ東日本も土地を売買するなり、借りたりする場合も、しっかりした土地の評価鑑定を鑑定士にとって、それに基づいて売買するということになろうかと思います。そのあたりも複合化施設をつくる段階、土地を借りるということを考えていた段階で、しっかりした評価を地価に基づいた評価でやるということは考えていますので、ＪＲがべらぼうに高く上げるということはないとは思っています。そこはすぐに場所だけ決めてこちらでやるということは考えておらず、並行して皆様の意見を聞いて、やはりどちらがふさわしいかということを、まとめていきたいというように思っているところです。

（○堀合委員）

わかりました。

（○坂本会長）

はい。それでは、藤田委員さん、お願いいたします。

（○藤田委員）

今のお話しのとおり、場所とか時間とかになると、「右だ、左だ、前だ、後だ」というようなことになると思いますので、そこはちょっと差し支えさせていただきまして、先ほどランニングコストやイニシャルコストの話もありましたけれども、アンケートもそうなのですが、もう少し民間の、法人なども入れてよいのではないかなというように思っています。というのも、（アンケートの属性を）何歳の男性・女性だけではなくて、「個人と法人」という分け方をすることで、いろいろ例えば収益性なども変わってくると思いますし、例えばまなび学園

の入り口の右のモニターのように広告を流すことによって、ランニングコストも下がると思います。また、今、リノベーションもそうですけれど、もともとの母体となる会社が小さくなってきて、少数精鋭の企業も多くなってきていますので例えば、大型の会議をするというときに（施設を）貸し出しますとか、もう少し全体的に、12月のお話の結果ということもありましたけれども、やはり民間の方々と話しているのと企業と話すことだと出てくる内容も違ってくると思いますし、アンケートの結果もそうですが、やはり法人の情報が足りないのかなと、とてももったいないなと思います。これからは、やはり産官学金労言士、みんなでステークホルダーを組んでやっていくということがとても大事だと思いますのでその部分だけご意見とさせていただきます。

（○市川生涯学習部長）

はい。今のご意見は、施設も民間との連携や民間活用も考えたらという意見と、民間の経営者のご意見も聞いたほうがいいのではないですかということですよね。最後のページにもありますが、商工会議所とも意見交換をやりまして、商工会議所の方々も（今、新図書館について）考えていただいているという状況にあると聞いています。青年会議所の皆様にも随時お話しなどをしておりますし、そういう若手経営者の方々からもご意見をいただければ大変助かります。今のご意見も参考にさせていただきたいというように思います。ありがとうございます。

（○坂本会長）

中里委員、お願いします。

（○中里委員）

最後の資料の「新花巻図書館の運営費試算」というところでお聞きしたいのですが、新しく図書館ができた場合の、この合計の額というのは、初年度だけではなくて毎年この額がかかるのかなと思って驚いたのですけれども、これは運営していける妥当な合計額なのか教えていただきたいです。

（○市川生涯学習部長）

２億円弱って結構な額ですよね。毎年このくらいかかるという見込みです。今の花巻図書館でも人件費から図書購入費、光熱費など全部含めて８千万円ほどかかっていますが、今の花巻図書館の床面積は約1,300平方メートル、一関図書館並みに考えている新花巻図書館は床面積が約4,500平方メートル、つまり３倍となります。３倍になりますと、やはり司書の人数など人件費もかかりますし、光熱費もかかります。スケールメリットで集約して３倍の金額まではいかないのですけれども、他市の図書館などを見ましても、今の新しい図書館ですと、やはりこれぐらいお金をかけていますし、もっと大きい図書館などはもっと金額がかかって

いるところもあります。それだけの金額をかけて建てたい図書館ですから、やはりいろいろな方の意見を聞きながら、我々も特定の方だけではなくて、今使わない方々も使えるような図書館、これからの子どもたちのためにもなる図書館というものを考えていきたいということで、ランニングコストも示しているというものです。

（○中里委員）

はい、わかりましたありがとうございます。

（○坂本会長）

はい、それでは熊谷委員さんお願いします。

（○熊谷委員）

皆さんが今までおっしゃっていたとおりに、本当に10年たって、そしていまだにきちんとしたものができていないというような状態なのですけれども、生まれたばかりの子どもがもう10歳になったというようなことですよね。新しい図書館になって費用がかかる、２億円近くのお金が毎年かかるということですけれども私の財布で勘定しているわけではないのですが、市民の方たちのためにこのぐらい支出するということは、私はそんなに多い金額とは感じていないわけです。新しい図書館ができて、それを利用する方たちが、本当に生き生きと図書館に行き利用しているということ自体だと、金額的にはそんなに大きなものではないなあと、市民に還元してくださっているなということは感じます。

いろいろな方にいろいろとご意見を伺っているところですが、絶対にこれは一つにはまとまらないというように思います。反対の方の意見も尊重しなければいけないし、賛成の方の意見も尊重しなければいけないけれども、例えば四つ場所があって、それをまず二つにしぼり込み、そして最終的に１か所というようなことも考えていくといいのかなと思いますし、ＪＲから「（土地を）50年たったら返してくれ」と言われるのではないかということを危惧なさる方もいらっしゃるのではないかと思いますけれども、例えば50年というような仮借地権が途中でまた50年というようなこともできないわけではないですよね。例えば50年たって「期限は終わりました。図書館も全部壊して、返してください」というようなことになると大変なことなので、そういうようなところも反対なさる方もあるのではないかなと思います。50年たつと私はきっとこの世にいないと思いますけれども、これから育っていく子どもたちに、やはりいいものを残したいなと思って、こうやって産みの苦しみをしているような状態なので、本当に市のほうでも大変な思いをなさっているということは十分わかりますが、この間オリンピックのことなどいろいろとありましたけれども、やはり透明性を持って「こうですよ」ということを市民の方々にきちんと言えば、そうそう文句は出ないのではないかな

と。密室で市のほうで決めてしまったというと文句が出るのではないかなと思いますけれども、きちんと透明性を見せれば、たとえ反対していらっしゃる方でもそこに（図書館が）できてしまえば、きちんと利用なさるようになるのではないかという、私はちょっと甘い考えを持っております。以上です。

（○市川生涯学習部長）

先ほど50年の土地を借りるというお話しは、複合ビルでテナントと住宅をつくる場合という案で、その複合施設自体は民間が建てるといいますか、民間が経営するというような構想であったので、そういう土地を借りてやるという方法も考えたのですが、今の段階では市議会からはやはり建設場所は市有地か購入したほうがいいのではないかという意見をいただいておりまして、ＪＲ東日本にもそのお話しはしています。ＪＲ東日本は会社の方針として、基本的には土地は売らないのだそうです。そういうなかで土地を借りて整備する方法を考えたわけですけれども、今回花巻市は例外的に、ＪＲは市の活性化のためにも貢献したいということで、ある程度土地購入の協議には応じてもらえるというお話しはいただいています。まだ土地を売るという具体的な話しはいただいてないのですが、その土地購入に関する協議には応じますというお話しはいただいているという状況でした。

あと、熊谷委員さんから前回、場所を７案からしぼったほうがいいのではないかというご意見をいただいたなかで、市民との意見交換では４案にしぼってやってきたというところがあります。やはり透明性を考えながら、市民に情報は出しながら意見を聞いて、場所をしぼっていくということもあると思っております。ありがとうございます。

（○坂本会長）

はい。それでは佐藤委員さんお願いします。

（○佐藤委員）

（図書館来館者）アンケートにもあったのですけれども、18ページに「現利用者の意見も新図書館の将来展望に入れたほうが良い（利用していない学生等のアンケートには利用頻度も集めたほうが良い）」という、これを深読みすると、どれくらい図書館を利用している人がこういう意見を出しているという、そういうことが知りたいということだと思うんですよ。利用していないのだけれども、自分は本を読まないし、図書館は利用してないけれども、新しい図書館はこんなふうだといいなっていう意見があるのではないかという発言だと思うのですけれども、新しい図書館を使う人は、これからの若い世代の人だから、若い世代の意見を聞くのは大事なことだろうと私は思っていますが、今、娘が高校２年生で、最近進研模試で古文の出題があって、西山物語だったのですが、西山物語はあまり

有名ではないというか、わからないというか、それで娘に図書館で本があったら借りたいと言われ、石鳥谷図書館から本を借りて、私もそれがどんな出題なのかと見たのですけれど、それは平安時代の古文ではなくて、比較的新しい（時代の）古文だったので、読める人は読めるのだろうと思いますが、これだけの読解力を全国模試で求められているというこの現状を考えたときに、それから逆算していくと、小学校ではこれぐらいの内容の本が読めて、中学生ではこれぐらいの内容の本を読めるようになっているという支援が、もちろん学校では教育なさっているわけですが、図書館の子どもの読書支援としてかなり高い目標値になっていくなあということを考えたわけです。それで、新図書館ワークショップの結果と、今高校生が求められている読解力というところをいろいろ考えてしまっています。以上です。

（○坂本会長）

具体的にありがとうございます。及川委員さん、お願いいたします。

（○及川委員）

前よりもまとまっていて、少しずつ進んでいるのだなという感じを受けました。運営費の試算のところ、一関図書館を参考にされているようですが、何時まで開館しているかとか、時間によってこの予算がどうなのか。

（○市川生涯学習部長）

一関図書館は午前10時から午後７時（平日は午後８時）までの開館で、休館日も週に１回あります。花巻図書館は午前９時から午後６時までで、週１回の休館日はありませんので、そのあたりまで吟味した人件費などの比較ではありません。単純に人件費は何人いる、あるいはその光熱費として同じ規模の灯油代や電気代などがかかるのではないかということを見込んだ計算ですので、実際の建物になるともっと吟味して節約できるところは節約していくということになろうかと思います。

（○及川委員）

図書館のアンケートは利用されている方たちの意見で、子どもたちの夏休み期間ではなかったので、子どもたちの意見が少なかったと思うのですけれど、やはり新しい図書館は（子どもたちにも）たくさん利用してほしいという気持ちがあります。それで、場所はＪＲの借地のところがベストな感じがするのですけれどこの駐車場というのは、何時間無料とか、今とそう変わらない感じですか。

（○市川生涯学習部長）

はい。今、花巻駅前にある駐車場は１時間無料で、それ以降、３時間まで100円という感じの駐車場になっていまして、図書館ができた場合に立体駐車場をつくりたいという現段階での計画ですが、そうすると図書館利用者ではない人も利用

するわけです。そうした例は全国にもありまして、それらを見ますと、例えば図書館に行くと駐車券が無料になるとか、図書館がまちなかや駅前にある場合、一般の駐車場でも図書館利用者は無料というところがありますので、そのようになろうかと思っています。

（○及川委員）

ありがとうございました。

（○坂本会長）

大勢の意見を聞くと本当にわからなくなります。

まなび学園を利用している方々が「まなび学園祭」をやるときに体育館を利用しているのですが、体育館の中にはトイレがないんですね。体育館には階段を上らないと行けませんから、階段の下のところまで降りなければなりません。すごく使いにくい。（この施設は）もとは花巻南高校ですから、高校生なら使えますけれど、まなび学園を利用しているお年寄りには使いにくいところなのですよね。そして、体育館ですから、いろいろ学んできたことを発表するのにも、講演をするのにも、あまり適しているとは言えません。あそこ（まなび学園周辺）ならば、まなび学園を使っている人たちがそういうことにも使える、そして、生涯学習の拠点ですから、図書館ともリンクできるような、ホールもあるような、そんな図書館があればいいのになあと。ホールがあって、体育館も立派なものがあって。体育館は今、中学生が予約することがとても大変ですので、そういう地域の体育館があって、そして発表できるところがあって、そして、勉強の拠点としての図書館があって。そういう施設が建たないのかなと勝手に思っています。早く建てばいいなと思います。よろしくお願いします。

（○市川生涯学習部長）

はい。いろいろ場所の候補地を出して、皆様のご意見を踏まえて、今四つの案にしぼっているような段階です。「まなび学園体育館」は、まなび学園の前に建ててしまうと、建てやすい場所ではあるのですけれども、まなび学園は今後20年程度使える見込みで改修していますが、それ以降はやはり壊さなければいけなくなってしまうときに、土地利用の問題があると思いまして、体育館のほうに寄せて建てるのはどうだろうかという案です。ただし、体育館も使われている施設ですから、別の場所に体育館を建てなければいけないだろうということも考えています。また、「総合花巻病院跡地」は、南側ではなく北側に寄せて建てる案ですけれども、南側には建物があり、これを壊すとなるとかなり掘削しなければならず、地盤が弱くなるだろうということから、北側に寄せている案です。そういうような、いろいろなところも考えながら皆様にお示しして意見交換をしてきたところでした。

後日、質問や意見などがあるかもしれませんので、それらもまたご意見ください。いろいろ参考にして、できるだけ早くやっていきたいのですが、皆様のご意見を聞きながらコンセンサスを得てやっていきたいという状況でした。

（○坂本会長）

ありがとうございます。大変だろうなと思うのがすごくよくわかりました。

それでは、（５）のその他を事務局からお願いいたします。

（５）その他

（○梅原花巻図書館長）

前回の図書館協議会で、佐藤委員さんからご質問を受けた閉架書庫の本をもっと活用してはということについて、図書館で取り組んでいきたいことや、考え方についてご回答したいと思います。前回、佐藤委員さんから、具体例を上げていただきながら、閉架書庫にある子ども向けの本、東京子ども図書館で子どもに読ませたい物語の本として紹介されている本が、花巻図書館の閉架書庫の中に入っていて、あまり開架書庫、表側に出ていない、そういう本はもっと利用したほうがよいというご意見をいただきました。確かに花巻図書館の閉架書庫には児童書が多く蔵書されていますので、それらの本は各館で利用できるよう、花巻図書館にあっても花巻市立図書館の蔵書という考え方をしておりますので、それぞれの図書館で、利用者がどんな本を読みたいと思っているか、児童書に限らず一般書についてもですが、どういった本を企画展として皆さんにご紹介したいかということを、各館で考え、「この本を、自分の図書館で子どもたちの目に触れるところで、開架に配架したい」ということをまとめてもらったものを、花巻図書館に限らず、それぞれの図書館と調整してもらって、それぞれ大迫・石鳥谷・東和の各図書館に本を持っていって、そこでテーマに沿った企画展を行い、閉架の本をもっと利用者の目に触れるようにしていきたいというように考えています。

閉架書庫の本を利用する取り組みは少しずつ始めておりまして、花巻図書館の例をお話しさせていただければ、「閉架書庫に自分で入りたいと思っていた」「閉架書庫の本をもっと読みたい」といったご意見も頂戴しておりましたので、閉架書庫に配架している本の中から、こういう本がありますということで、閲覧室はとても狭いですけれども、狭いなかでも本を紹介するコーナーを設けて、利用者の目に触れるようにしましたら、結構借りていかれる方がいらっしゃいます。また、読み聞かせに適した本をおすすめするコーナーは今ちょうど、来館者アンケートでも年齢別の、３、４歳向けのおすすめの本の紹介コーナーが欲しいというようなご意見もいただいたので、東京子ども図書館の「絵本の庭」などの参考図書を参考にして、あとは司書もしっかり選書していかなければいけないの

ですが、本を選んで、利用者の目に触れるように、手に取りやすいように紹介できればと検討しています。

あとは、各図書館でも、閉架書庫の本を地域の子どもたちに紹介したいという時には、それぞれの図書館の司書同士で連携し、その本を一時、各図書館へ持っていって、その地域で利用者に借りていただくというようにしたいと思います。その場合、本の所蔵館を変えるということは考えておりません。とてもいい本なので、今回は石鳥谷図書館で展示したけれども、次は東和図書館で展示したいというようなことがでてくると思いますので、所蔵館が花巻図書館になっていても花巻市全体の本ですので、自由にどこの地域でも手に取ってもらえるような感じにしたいですし、ゆくゆく新しい図書館ができれば、開架のスペースも広くなってきますので、今の花巻図書館の閉架書庫にある本も開架に配架できるようになります。ただし、新しい図書館の開架に配架されたからといって、分館では展示できないというわけではないので、テーマに沿った、そういった物語を地域の子どもたちに読ませたいというような企画展を企画するときには、各館でも展示できるようなやり方をとりたいなと現時点では考えております。

併せて、そういう企画展を、各館で利用者にどういう本を手に取ってもらいたいかということを考えることと並行して、閉架書庫の本が借りられたときには、その本が返却されたときにすぐにまた元の場所（閉架書庫）に戻すのではなく、しばらく開架に、ほかの方の目にも触れるように、開架ですと手に取ってもらえる機会も増えますので、そういったことも考えていきたというように思っております。よろしくお願いします。

（○坂本会長）

ありがとうございます。はい、佐藤委員さん。

（○佐藤委員）

今のお話しですけれども、反抗するわけではありませんが、一つ事例を挙げると、「絵本の庭へ」という東京子ども図書館の図書の索引「クリスマス」のところから、昨年12月に私が10数冊選んで、その10数冊は、請求票を出すと「最終返却日」が表示されますが、ほとんど何年も放置されていたという状態の本だったのですが、私が借りて返却した後、小姑根性といいますか意地悪だと思うかもしれませんけれども、検索して確認しましたならば、私が閉架から出して、返却した後、東和図書館と石鳥谷図書館は開架になりました。でも、大迫図書館と花巻図書館はそのまま閉架に戻りました。これが現実です。以上です。

（○梅原花巻図書館長）

申し訳ありませんでした。（閉架の本が借りられた後、すぐに閉架に戻さないということは）これから徹底しようという部分もございますので。

（○佐藤委員）

その本が魅力的かどうか、開架にするべきかどうかということは、東京子ども図書館の考え方がすべてではないので、返却した時に司書の人が「やっぱりこれは開架ではなくて閉架だ」と思えば閉架になって、それでいいとは思いますけれども、私は拠り所が東京子ども図書館の選書も大事ではないかなと思っています。

（○梅原花巻図書館長）

そうですね、そこはそのとおりだと思います。図書館の司書たちも、開架書庫はスペースに限りがございますので、その本がもっと皆さんに読んでもらえそうだなと開架に配架したり、「やっぱり閉架かな」と思ったりというところの検討はあったと思いますが、やはり少しは開架に、皆さんの目に触れるようにしたほうが、どの本を手に取っていただけるかわからないですから、そこはやっていこうと今少しずつ情報共有しながら取り組んでいるところですので、今はまだ少し失敗もするかもしれませんが、その時にはまたご意見をいただければと思います。普段、（東京子ども図書館などの）参考図書を見ながら選書しようという気持ちはあるのですけれども、なかなか追いついていない部分もありますので、気付いた都度、ご意見をいただけるとありがたいと思います。よろしくお願いします。

（○坂本会長）

本との出会い、人との出会いを大切にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、ほかに「その他」はございませんでしょうか。

それでは事務局のほうに進行をお返しいたします。

4　その他（久保田花巻図書館副館長）

ありがとうございました。それでは4番目のその他ということで、何でも構いませんけれども、もしお話しがあればと思いますがよろしいですか。

5　閉会（久保田花巻図書館副館長）